

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 自分で考え進んで学び続ける子【知】
- まちやみんなとの関わりを大切に子【徳 公】
- 夢や未来の創造にたくましくチャレンジする子【体 開】

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

- <言語能力>
- <問題発見・解決能力>
- <自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

- ・教科書や資料等から必要な情報を取り出し、それを基に思考し、対話や議論を通して思考を整理・再構築し、表現する力
- ・様々な対象・事象の中から問題を見出し、解決方法を探し、計画・実行する。さらに、そこから振り返りを行い、次の問題発見・解決につなげていく力
- ・「なりたい自分」に向けての各活動における自己の取組や成長を振り返り、課題を修正する等自己調整しながら自己の成長に必要なことに気づき、成長へとつなげる力

中期取組目標

- 子ども一人ひとりの「学び」の高まりと自尊感情の醸成を大切にします。
 - ・「人 もの こと」上の関わりを大切にし、主体的に問題発見し友達と協働して解決する力を育てます。
 - ・一人ひとりの自己肯定感を高め、思いやりの心を育みます。
 - ・健康的な生活習慣を形成し、ねばり強く最後までやりぬく心と体を育てます。
 - ・地域や社会とつながる体験や本物との出会いを通して、自己の成長を見つめる子を育てます。
- 子どもを真ん中にした「チーム奈良」の連携・協働を推進します。
 - ・家庭、地域、各関係機関等との連携を図り、「チーム奈良」で一人ひとりの子どもの成長を支えます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①目指す子どもの姿を実現するため、全教職員が子どもの具体的姿で共有できるように研究会の充実を図る。 ②互いの授業を見合う機会を意図的に設定したり、授業研究会を実施したりして全職員の授業力向上を図る。 ③子どもの資質・能力を育む授業を実施するために、校外の研究会や研修会に積極的に参加するなどして各自が学んだ内容の発信や共有を図る。
学力向上に関わる本校の状況	・教師 ○学習研究部で「友達と学び合いながら自分の考えを広げ深める子～ICTを効果的に活用した授業デザイン～」をテーマに授業改善に取り組んだことで、ICTを活用する手立てを学んだ。 ▲ICTを効果的に活用するためには、それぞれの学習の中でのような資質・能力を育むのか、教師が子どもの具体的姿で言語化する必要があるが、この点に関して課題が残る。 ▲日々の授業の中で「学び合い」を大切にしていたが、考えを広げ深めたり、学習の価値を実感させたり、資質・能力の育成については課題としている教師が多かった。以上のことから、意味のある「学び合い」を実現させるための方法を模索していく必要がある。 ▲主体的に対話的で深い学びを実現させるためには、読み取った内容を吟味したり、既存の知識と関連付けながら自分の考えを構築したりするための「言語能力」の向上が必要である。またそれを実現するために研究会等を実施し、授業改善につなげる必要がある。 ・児童 ▲課題解決に向けて論理的に思考する力。 ▲既習内容と関連付けながら、解決までの道筋を描く力。 ▲どこまでが分かって(できて)、どこから分らない(できていない)のかを認識する力。
今年度の目標	ゴールに向かって「学び合える」子の育成 ～言語能力を向上させる単元デザインと授業の在り方～
目標を実現するための具体的行動プラン	上半期 ①言語能力を向上させるために、学習経験や生活経験をもとに単元デザインや授業の在り方を見直す。 ・教科担任で担当する教科等を柱に、各学年の児童の実態を把握し、それぞれの経験と結びつけながらよりよい学びの場を実現させる。 ・「何に着目し、どのように考えていくのか」を柱に据え、学習指導要領を解釈するなど、教材分析を充実させ、授業改善へつなげる。 ②目指す子どもの姿を実現させるために、全職員が子どもの具体的姿で共有できるように研究会の充実を図る。 ・「言語能力」の視点から、授業づくりについて研修し、各自の授業改善につなげる。 ③互いの授業を見合う機会を設定する。 ・低・中・高ブロックで月に1回～2回互いの授業を見合う機会を設定し、教師協働による研究にする。 下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
思いやりの心	①道徳の授業改善と児童の「振り返り」の仕方の充実。②月に1回のたてわり集会やてくら遠足を通して、たてわりグループでの交流の場を意図的に設け、異学年の友達と協力して活動できるようにする。③たてわり活動以外でも他学年とのかかわりができるように、教科等のカリキュラムに交流の活動を位置づける。④年間の取組として設定しているあいさつを通して、日常的に他者とのかかわりがもてるようにする。
豊かな心に関わる本校の状況	○学年関係なく、困っている子へ声をかけたり、下学年の子に優しくしたりできる児童が多い。 ○人には優しくしたい」と思っている児童が多い。 ▲人とかかわり方・コミュニケーションのうまいといった感じられる経験が少ないためか、進んで人とかかわりをもったり、行動したりすることができない児童もいる。 ▲自分だけの視点で物事をとらえ、行動してしまふ。 ○道徳の学習では、良い考え、良い行いと思えることが発言できる。 ▲道徳の学習で、なかなか本音で語り合えない、そのために、日常生活に道徳的価値を落とし込めない。
今年度の目標	自分の周りへ視野を広げて考え、思いやりの気持ちを行動に移すことができる子を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン	上半期 ①道徳の授業改善と児童の「振り返り」の仕方の充実 ・道徳の授業の中で、子どもが本音で話せるようなゆきぶりを発問の追求 ・児童一人ひとりの発言の場の保障 ・児童一人ひとりが授業を終えたとときに、しっかりと振り返ることができる展開の工夫 ②たてわり活動の充実 ・たてわりタイム(集会)を月1回設定する ・たてわり遠足を実施。当日に向け、たてわり活動の時間を設定する ③他学年とのかかわりの充実 ・他学年とのかかわりなカリキュラムの中に位置づける ・学習のまとめや作品を他学年に発表する など、意図的・計画的な取組をする ④あいさつを通して、日常的に他者とかかわりをもつ。 ・児童会を中心として、あいさつ運動などの取組を行い、あいさつの輪を全校に広げていく 下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな心と体	①身体を動かすことの「楽しさ」を体感させるため、運動委員や委員会などの児童活動を活用し、様々な遊びを提案する。休み時間の外遊びを増やし運動の良さを伝える。②学校保健委員会で基本的な生活習慣をテーマに取り上げ、児童保健委員による話し合いや調査、意識喚起をする。③養護教諭が学年・全校への保健指導を意図的・計画的に行い、基本的な生活習慣の意識向上を図る。④栄養士によるバランスイートナーワクの活用や給食委員会の活動を通して、栄養バランスの良い食事を中心とした食育活動に取り組む。
健やかな体に関わる本校の状況	・運動能力について ▲コロナ禍でもできる方法で、体育的行事を委員会・実行委員の児童が企画・運営し、内容と取組の充実を図れた。「運動の楽しさ」を伝える活動に取り組んできたが、活動に制限があり十分な運動時間の確保ができず、運動に対する意識を改善することができなかった。 ▲筋力や敏捷性といった体力の低下が課題とされる。 ・保健について ▲保健集会での生活指導やほけんだよりによる啓蒙を行ったが、新型コロナウイルスによる感染がみられた。ハンカチ・ティッシュの携帯、手洗い・マスクの着用など、基本的な生活習慣をより一層身に着けさせたい。 ・食育について ▲栄養士による給食訪問毎月発行する給食だより、保健だよりによる啓蒙により、食や健康への意識付けができた。しかし、残食率の高まりが、まだまだ課題となっている。
今年度の目標	運動(身体を動かすこと)が「楽しい」と感じる子を育てる 基本的な生活習慣を意識できる子を育てる
目標を実現するための具体的行動プラン	上半期 「運動(体を動かすこと)が「楽しい」と感じる子を育てる」 ①身体を動かすことの「楽しさ」を体感させる ・運動委員会を活用し、休み時間の外遊びを促す ・集会委員会を活用し、外で身体を動かす集会(長縄集会等)を企画する ②学校保健委員会 ・「健康的な生活」をテーマに基本的な生活習慣を意識付けする学校保健委員会を運営する ③養護教諭の関わり ・保健だよりを定期的に発行する ・学習タイムやお昼の放送等で傷病の予防について保健指導を行う ④食育活動 ・児童の食生活の実態把握 ・食に関する指導に係る全体計画的な作成(見直し)及び、食に関する指導の組織的・計画的な実施:バランスイートナーワクの実施、栄養士のチーム・ティーチングによる食に関する指導の実施 ・給食だより・ほけんだよりを通じた食情報の充実 下半期